

特集

平和な未来へ

今、語り継ぐべきこと



昭和20年8月15日の終戦から、今年で70年。戦争体験者が高齢化し、その記憶が風化していくなか、戦争と平和について次の世代へどう伝えていくかが課題となっています。市では、平成25年に太平洋戦争を体験した市民の声をまとめた体験談集『太平洋戦争と三豊』を発行。戦争の悲惨さとともに、平和の大切さを次の世代に伝えるための貴重な史料が完成しました。

今日の平和な日本は、戦後の焼け野原から、復興に向けて懸命に努力してきた人々の不断的努力が創り上げてきたものです。体験者が語る戦争の恐怖や三豊市で実際にあった事実を通して、今一度、平和の大切さ、命の尊さを考えてみませんか。



ま〜がれっと通信

三豊市を マーガレットでいっぱいしよう

ご当地ナンバープレート、婚姻届に続いて、市の花と三豊の風景をデザインしたラッピングカーがこのほど完成しました。

このラッピングカーは、市民の皆さんに市の花“マーガレット”をより親しんでいただきたいとの思いから作成しました。

今後は、市内を走る公用車として秘書課に配備され、主に広報紙の取材の際に使用します。

夏から秋にかけて、市内ではたくさんの催しが開催されます。もし、見かけたら気軽に手をふって下さいね！



三豊市の人口

※平成27年7月1日現在 ()内は前月比

世帯数 23,340 世帯(-20)

総人口 65,637 人(-58)

男 31,260 人(-10)

女 34,377 人(-48)

※香川県人口移動調査による

表紙

今月の市民力



設をまわったり、地域のまわりに積極的に参加したりして、笑顔の日々を過ごす中井さん。平和な暮らしを人一倍願う中井さんだからこそ、住みながあふれるよう地域に根差した活動を続けています。

戦時中、学徒動員で日本軍の飛行艇の修理を行っていた中井良祐さんは、3月に三豊中学校で戦争と平和について語りました。生徒と同じ年代を過酷な肉体労働に明け暮れ、攻撃の恐怖におびえながらも必死に生きた中井さん。「戦後になって平和の尊さがはつきり分かりました。この悲劇を二度と繰り返してはいけません」と強く訴えました。

中井さんは、体験談集『太平洋戦争と三豊』の発刊にも携わり、仁尾町内の戦争体験者約30人に聞き取り取材を行いました。「今読み返しても涙が出ます。戦争体験を語る人が少なくなるなか、貴重な話を聞き、改めて平和がどれだけ幸せか、守り続けなくてはならないかを実感しましたね」

今は音楽同好会のメンバーとして市内の福祉施設をまわったり、地域のまわりに積極的に参加したりして、笑顔の日々を過ごす中井さん。平和な暮らしを人一倍願う中井さんだからこそ、住みながあふれるよう地域に根差した活動を続けています。

悲しい戦争が二度と起きないように



政本道一さん(94)は、負傷兵の応急処置、後方での傷病兵の看護や治療、部隊の衛生状態の維持を担当する衛生兵として台湾、パラオを経由してパプアニューギニアへ出兵し、終戦を現地で迎えました。戦闘や飢餓、病気で多くの仲間が命を落としていくなか、奇跡の生還を果たした一人です。

1,000人くらいおったと思いますよ。誰もが非常事態だと分かっていたし、生きては帰れないなと感じていました。

家族も覚悟の見送りです。善通寺駅に止まっていた特別列車に乗り込むと、窓際に家族がくっついて離れず、なかなか発車できませんでした。本当に辛い、悲しい別れでしたよ。

な美しい南国でした。「行き先はこんなに平和な所なのか?何か違うぞ、ここじゃない!」といった感じでしたね。

市長 違和感を抱きながら、ペリリュー島ではどのくらい滞在していましたか。

政本 ペリリュー島や近くのコロール島の病院で2カ月ほど負傷兵の治療などを行いました。これから先、地獄が待っていると恐れながらね。

明日の命があるかないか 壮絶かつ悲壮な戦地

政本 命令は突如として下されました。行き先はパプアニュー

隊が全滅したと聞きました。そして病院も。その時、足止めを強制してまで招集した理由が初めて分かりました。

私の任務は治療のほか、

現地での治療が困難な兵をパラオの病院に送ることでした。戦況は悪化の一途。皮はめくれ、手足がない負傷者が次々と運ばれてくるんです。それだけではありません。マリアなどの熱帯性の感染症にかかった人や飢えて運ばれてくる人も。物資を運ぶ船が沈められ、武器や弾薬、薬、食料もなく、戦わずして死んでいく兵を何人見てきたか分かりません。

美しい南国の島だったペリリュー島も攻撃を受けます。島を取り囲むほどの軍艦が襲来し、猛烈な艦砲射撃と航空機による爆撃…。逃げ場なんてありません。これほどむごい戦いがあるのかと思いましたよ。美しかった島は緑もなくなり、ただ焼け焦げて赤茶色の島があるだけでした。

「悲しい、悲しい戦争が二度と起こらない社会を作っていきましょう」

5月16日、市民交流センターで開催した終戦70周年平和祈念講演会の壇上で、詰めかけた約450人の参加者を前に、政本道一さんは涙ながらに平和を守り続けていくことの大切さを強く訴えました。

戦中、戦後のさまざまな体験を思い起こし、政本さんと横浜市市長が戦争や平和について、語り合いました。

異例の足止め強制 最期と直感

市長 今回の対談は、戦争とは無縁の世代にとって貴重な史料となります。政本さんの戦争当時の体験を伝えていただきたいと思います。

政本 私は昭和16年、20歳の時に徴兵されました。体が小さかったので、衛生兵になるための訓練を受けます。善通寺で初めの半年は戦場を徒歩で行動する歩兵

次から次へと患者

が運ばれ、弱っていく兵士が私の手を握り、妻や子の名前を叫びながら息を引き取るんです。その瞬間

は表現しきれません。私たちも精神を維持するのが大変でした。24時間、毎日緊張状態が続きましたね。何かを考える余裕はなく、明日をどう生きるか、それしか考えていませんでした。

異国の地で迎えた 終戦の日

市長 緊張状態が続く中、終戦をどちらで迎えましたか。

政本 パプアニューギニアで終戦を迎えました。終戦間際になると、攻撃は少なくなり「何でやるかな?」と思いますながら任務にあたっていました。8月15日に終戦を迎えたというのは、どこになしに伝わってきました。空からは弾に代わってたくさんさんのビラが舞い落ちてきました。拾ってみると「戦争に負けたのです」「早

として鉄砲の打ち方などの訓練を、次の半年は衛生兵としての勉強をしました。当時、善通寺には衛生兵が140〜150人くらいおりましたね。

訓練が済んで、一度高瀬に戻ってきました。そして22歳の時、一銭五厘のハガキが届きます。「遠方へは行くな。仕事をしよる人はきちんと片付けしておけ」といった内容で、足止めを強制するものでした。その後、召集令状の赤紙が手渡されたんです。行き先は書かれていません。赤紙の前に足止めのハガキが来ることはほとんどありません。非常事態だと直感しました。

市長 その時の心境はどのようなものでしたか。

政本 「これが自分の最期になる。やってやるぞ」という思いでしたね。

家族は覚悟の見送り 行き先不明の地へ

政本 善通寺には四国中から約200人が招集されました。見送りに来た人は



く出てきて、祖国に帰りたい」と、日本語で書かれています。負けるわけがないと思っていましたが、1カ月くらい経って、迎える船が来て、本当に戦争が終わったんだと分かりました。みんなで涙しました。戦争は終わりましたが、敗戦の責任と死んでいった部下を思い、自ら命を落とす人もいました。

パラオから一緒に帰ってきたのは150人くらいです。善通寺から共に戦地に向かった衛生兵200人のうち、帰ってこれたのは20人ほどでした。日本に戻り焼け野原を見て、負けたんだと改めて感じました。帰国後、しばらくは神奈川県の陸軍病院に勤務して、

◀政本さんが向かった西太平洋海域



▶平和の道を歩み続けるために何が必要かを政本さんと語る横浜市市長



川田敦子さん(101)

夫の出征により、朝鮮から幼い子ども4人と帰国。終戦後に夫の死を知る。厳しい戦後の中、一人で子どもを育てた。

夫は官庁に勤め、私たちは家族は朝鮮で生活をしていました。戦争が激化し、生活は一変。夫は昭和19年に部隊へと招集されます。住んでいた所は寒さが厳しかったため、私は必要な物だけを持って、4人の子どもと一時的に日本へ戻り、夫が帰還する日まで高松で生活を始めました。夫からの連絡を待つ中、昭和20年7月、大量に投下された爆弾が夜の静寂を切り裂きました。高松空襲です。子ども4人を連れて、必死で近くの校庭にあった防空壕に逃げ込みました。この上ない恐怖でした。攻撃が終わって防空壕を出ると、子どもを乗せてきた乳母車が校庭の真

ん中で燃えていました。逃げる際に負った傷は未だに消えることはありません。終戦から2年が過ぎようとした頃、夫の死を知らせる公報が届きました。覚悟はしていましたが、やはり悲しかったですね。戦後の生活はとても苦しいものでした。家も食べ物も無く、金銭的にも大変でした。でも、「父親の分も私が子どもたちを育てあげていく」と、がむしゃらに生きました。今、優しい子どもたちと一緒に暮らしていることをありがたく感じています。みんなが平和に暮らせることが大切やとつくづく思いますね。幸せなこと、それは平和ですよ。

「夫の帰りを信じ続け 子どものためにがむしゃらに生きた」

遺された家族が願う

平和

の尊さを次代に継ぐ者

「戦争を体験していなくても
私は語り継いでいく」

私は母と一緒に5月の平和祈念講演を聞きに行きました。これまで戦争について授業などで学んできましたが、正直私には関係ない、どこか他人事だと思っていました。でも、講演会で戦争を体験した人の話を聞いて、戦争はやっぱり怖いものであり、起きてほしくないと改めて感じました。毎日のように凄惨な事件のニュースが報道され、命が軽くみなされ過ぎていく気がします。私は戦争を知りません。でも、体験者が語る戦争の怖さや平和の素晴らしさを、私は次の世代に伝えていきたいです。

大久保理聖さん(14)



政本 今まで、自分の子どもにも話したことはありませんでした。戦後、日本の社会が急激に変わり、戦争というのが置き去りにされていたというのもあるし、振り返りたくなかったというのがあります。当事、私は軍医と一緒に



◀資料を見せながら激戦地の様子を話す政本さん

政本 自分で調べて遺族の元に届けました。私の任務は兵士を助けることだったので、なぜ助けてやれなかったのか、その自責の念は今も残ります。今になって、せめてもの務めが戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることだと気づ

に行動し、死亡診断書を記入していました。遺骨を持って帰れる状況ではありません。何とか遺族の方に渡したいの思いで、亡くなった人の髪の毛を切り、診断書に貼り付けていきました。亡くなっていく人の手を握り「必ず家族に渡してやるぞ」と言って、300人分くらい作りました。私なりの精一杯の気持ちです。戦後、



▶戦争の記憶を残そうと、政本さんはノートに書き記し、今も読み返している

政本 戦争は二度とあって付き、講演するようになりしました。それが、これからの自分の生きていく道であり、果たすべきことなのかもしれませんね。戦争のない時代へ向け今すべきことは

政本 最近、同じ戦地に行った人に会いました。その人に「自分は体調が優れず、残念ながら戦争の話ができる状態にありません。政本さん、どうか平和の素晴らしさを伝えてほしい」と言われました。できる限り頑張りたいですね。人間とい

うのはなかなか振り返ろうとはしません。今年は戦後70年という大きな節目の年です。ここで振り返らなくてはならないと思います。歴史は記録です。いかに記録に残すかが大切です。今までも、戦争について本を作ったり、ビデオを作ったりしてきましたが、それでも伝わりきらないところがありました。今後は、体験者にご協力いただき、若い人に生の話を伝えていきたいですね。

奇跡の生還を果たした政本さんの戦時品。医療用のカバンやマラリアの特効薬を入れていた容器など。



戦時中の三豊



特攻隊員の別れの杯



基地隊員の見送りを背に出陣する神風特別攻撃隊



かっぽう着姿で射撃訓練を行う国防婦人会



詫間海軍航空隊開隊式の様子



終戦直後の詫間海軍航空隊(右)と現在の風景(左)

若き隊員が神風特攻隊として出撃

詫間海軍航空隊の真実

瀬戸内の青い海と多くの島々が見渡せる香川高専詫間キャンパスや工場が建つ地に、詫間海軍航空隊という神風特別攻撃隊の基地が置かれていた。

戦争中に掘られた防空壕や、航空隊が使用していた水上機を海上に出すための滑走台の一部は、今もなお当時の面影を残しています。

二度と戻れないと知りながら、この地から飛び立った多くの若き隊員たち。命をかけた特攻隊の歴史は、決して忘れてはいけません。

昭和16年11月

強制移転命令

地域住民が詫間小学校へ急ぎよ招集され「軍用地として買収するため、期限内に家屋などの移転を完了するように」と説明を受ける。買収は約130戸、面積は約37万㎡。男性は軍隊などに出ているため、移転作業は主に女性と子ども、高齢者が人力で行った。

昭和18年6月1日

詫間海軍航空隊が開隊

当初の目的は、水上機の実用教育・訓練を行うこと。各地から集められた2,000人を超す兵員が連日猛訓練を行った。

現在の詫間中学校とその周辺には、飛行機や機械、食料、衣料などの必要な物資を保管する「呉海軍需部詫間補給所」が建設される。昭和19年には補給所内に修理工場を建設。「第十一海軍航空廠詫間工場」として修理を行い、終戦まで四国内の海軍航空基地の実戦機を飛ばした。

昭和19年9月

水上機の一大作戦基地に

沖縄攻防戦に備えて、詫間は教育訓練基地から大型飛行艇隊を擁する水上機の一大作戦基地となった。

昭和20年3月

神風特別攻撃隊琴平水心隊を編成

昭和20年2月、全小型機による特攻訓練の実施が発令された。詫間海軍航空隊でも水上機による神風特別攻撃隊を編成し、別の航空隊で編成された隊とともに、ひたすら体当たり攻撃の訓練を重ねた。

昭和20年4月

神風特別攻撃隊が出撃

4次にわたる出撃で、32機69人の若き隊員の尊い命が犠牲となった(諸説あり)。

昭和20年8月15日

終戦

昭和22年5月

詫間中学校を発足

新浜の呉海軍需部詫間補給所や第十一海軍航空廠詫間工場跡を利用して、詫間中学校を発足。

昭和24年5月

国立詫間電波高等学校が設立

官立大阪無線電信講習所が大阪府から在校生とともに詫間海軍航空隊跡に移転し、国立詫間電波高等学校と改称した。

詫間海軍航空隊物語を基に聞き取り調査などを実施

わが青春時代を戦争に

夢に向かい友と支え合い、人生の一ページを
彩る青春時代を戦争に捧げた人が多くいます。



中井良祐さん(86)
学徒動員により終戦まで海軍
航空廠で過酷な作業を続けた

昭和20年4月、観音寺商
業4年生の16歳だった私は、
飛行艇の修理を行う第十一
海軍航空廠詫間工場へ動員
され、主に塗装任務にあた
りました。

工場には攻撃を受けた飛
行艇が次々と運ばれてきま
す。休みなんてありません。
朝から晩まで修理に追われ
る日々。食事でも空腹を満た
すだけのものでした。

修理する人のほとんどは
10代の若者ばかり。男性だ
けではありません。女性も
多く動員されていました。
ふる里を思い、泣きながら
働く人もおりましたが、死
の狭間で戦っている人のた
め、攻撃に遭いながらも必
死で働きました。

ね。戦争が終わったという
ことが全く理解できません
でした。私たち学生は詫間
工場で1年間の修理訓練を
した後、戦地で修理の任務
にあたる予定でした。もし、
戦争が終わっていないけれ
ば、今の私は存在していなかつ
たかもしれませんね。

苦しかった青春時代でし
た。しかし、あれが私の青
春時代だったのは事実です。
戦争で多くの尊い命が失わ
れました。私たち戦争を知
っている世代は戦争の恐ろ
しさを伝え、今を生きる人
に、今日の生活がどれだけ
幸せであるかを感じてほし
いですね。

「今がどれほど幸せか感じてほしい」



▲大見尋常小学校での訓練の様子

詫間海軍航空隊跡から望む瀬戸内海。
穏やかな波と緑鮮やかな大小の島々が
織りなす多島美からは、つい70年前ま
で戦争が行われていたことを想像させ
ません。

しかし、この地でひたすら特攻を想
定した体当たり攻撃の訓練を重ねた若
き隊員たちがいたことは、紛れもない
事実です。機上から二度と帰れない美
しい讃岐の風景を目に焼き付け、南の
海へと出撃していった彼らはどんな思
いで飛んで行ったのでしょうか…。

風化しつつある戦争の記憶。平和と
いわれる日本は、今こそ過去を「知る」
ことが大切です。戦争の真実を知って
ください。そして、その真実を正しく
語り継いでください。平和や命の尊さ
について、改めて見つめ直してくださ
い。それが、全ての人が幸せに暮らせ
る「本当の平和」という道を歩み続け
ることに繋がります。



終戦70周年平和祈念講演会 『太平洋戦争と三豊』・展示会

世界中の紛争地に赴き、現地
に暮らす人たちの生きた声に耳
を傾け、極限の中に立たされる
家族の絆を撮り続けた戦場カメ
ラマンが、平和の大切さや命の
尊さを伝えます。

講演に先立ち、学生による実
話に基づいた朗読劇や戦争体験
者の講話もあります。

また、400点を超える戦時
中の物品の展示会も同時開催さ
れます。

日時 8月16日(日)

午後1時〜(正午開場)
展示会は午前10時〜午後5時

場所 マリンウェーブ

講師 渡部陽一氏

(戦場カメラマン)

演題 世界からのメッセージ

〜希望ある明日のため〜
※駐車場には限りがあります。
公共交通機関をご利用になるか、
乗り合わせてお越しください。

詫間町考古館でも8月30日
(日)まで「子や孫に伝える戦争
体験・戦争中のくらし展」を開
催します。

